

吉野川高水防御工事計画意見書

[原本印刷版]

計画担任 第五区土木監督署長
土木監督署技師 沖野忠雄
土木監督署技師 宮川清

明治卅五年七月

(一) 流域並流路

吉野川ハ徳島、高知及愛媛ノ三県ニ連ル一大河ニシテ其源ヲ土佐国土佐郡本川村ニ發シ東流シテ長岡郡ニ入リテ穴田（内）川（流路十一里）ヲ加セ之ヨリ漸ク迂回シテ北ノ方向ヲ取り阿波国三好郡ニ入リ祖谷山麓ヨリ發スル祖谷川（流路十七里）ヲ合シ同郡川口ニ於テ伊予国宇摩郡ヨリ發スル銅山川（水源ヲ別子ニ發シ流路十九里）ヲ加セ池田ニ至リ之ヨリ東流シ海ニ入ルノ間兩岸ヨリ注入スル溪流數フルニ隙アラズ其中大ナルモノハ劍山ヨリ發スル穴吹（流路十三里）及鮎喰（流路十一里）ノニ川ニシテ前者ハ穴吹ニ於テ本流ニ注キ後ハ徳島ヲ去ルニ里余ノ北ニ於テ支派川別宮川ニ入ル本流ハ第十二至リ別宮川ヲ派シタル後屈曲迂回北部ノ山麓ニ沿ヒ更ニ今切川ヲ派シテ撫養町ノ南ニ於テ海ニ注ク別宮川ハ分流直流シテ徳島ノ北里余ノ処ニ於テ海ニ入ル

河川調査ニヨレバ全流域二百卅七方哩流路六十里而シテ通航区域ハ廿七里廿五町ニ互ル全流域ノ平地ニ屬スル部二十八方哩山地ニ屬スルモノ二百九方哩而シテ全流域ノ人口五十三万其平地ニ屬スルモノ卅一万山地ニ屬スルモノ二十二万人トス。

流域ノ形状ニヨリ本川白ラ三大部ニ分ル大一部ハ池田ヨリ上流第二部ハ池田西林間第三部ハ西林以下海ニ至ル間トス。

其一部ト稱スルハ所謂山間部ニシテ只川數ヲ余ス外兩岸ヨリ連山直立川流深淵ヲナシ平地ヲ見ル事希ナリ第二部ニ至レバ兩岸漸ク開キ殊ニ西林ノ上遊ニアリテハ開キ一里ニ及ハントシ西林ニ至リ兩岸ノ山相集リ川巾七十間ニ減シ一大狹隘部ヲ現出スルヲ以テ西林ノ上遊ハ自ラ山間ノ遊水部ヲ形成スルノ觀アリ第三部ハ所謂平地部ニシテ平地益々広ク巾一里ニ亘リ海ロニ及ヒテ三里ニ達シ其状喇叭状ヲナス此間川島ノ前方善入寺島ヲ抱テ本流ニ分スルノ処高水ノ際茲ニ第二ノ遊水部ヲ顯ス

勾配ヨリ見ルトキハ大体ニ於テ急流ナリトイエドモ寬（緩）急其負ヲ得上流山間部ニ至ルモ激湍少ク舟楫ノ通航大二便ニシテ目下海ロヨリ川口ニ至ルノ間廿七里余航行頻繁ナリ廿五年ノ調査ニヨレバ舟數一百五十余艘石高三万ニ及ブ今低水勾配ノ一般ヲ左ニ示サン

海口ヨリ第十迄	二千分一
第十ヨリ西林迄	千分一
西林上流	八百分一

流域ノ地質ハ水ヲ浸透セシメサル岩層ヨリナルヲ以テ流域ニ下スル雨ハ殆ンド全ク河水トナリテ流ルルノミナラズ水源ノ斜傾甚ヌシキカ故降而アルト同時ニ全川ノ膨張ヲ来スノ有様ナリ水源ニ平地少ナキ為焼畑切畑ト稱シ山間ノ樹木ヲ伐採シテ耕土トナスノ奇風從來行ハレタル事トテ土砂ヲ流出セル甚シク殊ニ西林ノ上下遊ニアリテハ兩岸ノ急激ナル溪流山麓ヲ破壊シ河川ヲ埋ムルモノ少カラズ甚大ナルモノハ曾江谷及日開谷トス本川流域内砂防工ニツイテハ砂防法ニ由リ之ヲ施工スルノ見込ヲ以テ目下徳島県庁ニ於テ之レガ調査ニ從事シツツアリ

(二) 高水並水害景況

水害實ニ瀨多ニシテ毎年其害ヲ被ラサルコトナシ今數個ノ量水標ニ就テ其設置以來毎年ノ高水中其年ニ於テ最大ナルモノヲ列挙シ増水ノ一般ヲ示サンカ

左ニ近年ノ大高水タル卅年九月及卅二年七月ノ高水力左ノ各標ニ依テ觀測セラレタル結果ニヨリ其水面勾配ノ一般ヲ示サンカ

量水標名	各標間ノ距離	卅年九月三日高水ニ 對スル水面勾配	卅二年七月三日高水 ニ對スル水面勾配
西 林	6700 間	1/ 827	1/ 870
川 島	7140 "	1/1155	1/1110
高 畑	600 "	1/2115	1/1074
第 十	260 "	1/ 530	1/1082
佐野塚	4080 間	1/1925	1/1818
高 崎	1800 "	1/1846	1/1963

茲ニ注意スヘキハ別宮川ノ本流ヨリ分岐スル處ニハ有名ナル第十堰ト稱スル二列ノ石堤洗堰アリ本流ト別宮川トノ間平水ニ於テ十二尺ノ落差ヲ有ス高畑第十及佐野塚ノ三標ハ二列ノ堰ヲ挟ミ流ニ沿ヒ設置セルモノトス

今此等ノ高水力河川並ニ沿岸ニ如何ナル影響ヲ及スカヲ見ルニ池田以上ノ山間部ニアリテハ沿岸皆山ニシテ人家モ少ク道路ノ如キ高水面以下ニアル處少キ為高水ニ對シ著シキ影響ヲ被ラス池田以下西林ニ至ル部ニアリテハ家屋田地道路等浸水スル處少カラサルモ甚区域沿岸少許ノ低地ニ止マリ人家稠密ノ處ハ多クハ高水位上ニ有スルヲ以テ水害甚シキニ至ラズ西林以下海ニ至ル平地部ハ被害ノ大ナル區ニシテ一旦高水ノ際ハ一帯ノ平地殆ンド余ス處ナク浸水スト云フモ不可ナシ茲ニハ堤防アルモ所謂霞堤ニシテ水ヲ防禦スルニアラズ只水勢ヲ殺キ家屋建築物ノ流出ヲ御クニ止マリ浸水ハ下游ヨリ回り來リテ水位屋根ニ及ヒ人ハ皆二階若クハ屋上ニ避難スルノ有様ナリ此ノ平地中阿波郡ノ一部ハヤヤ高地ニ屬シ浸水ノ害ヲ免カルモ之其一小部ニ止マルノミ河川調査ニヨレバ水害總反別大凡一万町歩ニ及ヒ其ノ八九分ハ此ノ平地部ト知ル可シ亦タ上記平地部人口卅一万ト稱セルモ其ノ大部ハ此ノ流域ニ屬スルモノトス

此ノ高水浸水區域ニ於ケル農作物ハ徳島唯一ノ産物タル藍ニシテ其ノ產地モ徳島県中亦タ茲ニ限ラル藍ニシテ一朝浸水サレンカ流水奔湍ノ處ニアリテハ素ヨリ收穫ヲ望ム可カラサルモ単ニ水ヲ被ムルニ止マル處ト雖モ泥水莖葉ニ染シ其ノ価ヲ半殺スルニ至ル

該川ノ高水タル實ニ急激ニシテ農作物ヲ荒スコトモ大ナルト同時ニ堤防其他建築物ヲ破損スルコトモ甚シ若シ此ノ如キ高水ニシテ續クコト數日ナランニハ流域或ハ人跡ヲ見ル能ハザリシナランモ其急流ナルハ減水ノ速力ナル所以ニシテ大高水ト雖モ二昼夜ニ及フモノ希ナリ是地方ヲシテ漸ク今日ノ進歩ニ至ラシメタル所以ナルカ

藍作ノ最モ盛ナルハ別宮川及ビ吉野本流ニ囲マレタル藍園村ト称スル一帯ノ地ニシテ比地浸水区域ノ中心ニ位ス米作ハ海岸ニ接スル低地部ニシテ藍作ニ適セサル処ニ行ハレ其灌溉用水ハ吉野本流並ニ今切川ニ仰ク河川調査ニヨレバ全灌溉反別八百四十四町歩トス

茲ニ徳島市ノ高水ニ付キ一言セン同市ハ上記ノ平地部中海ニ近キ一南隅ニ位シ其ノ浸水区域ニ属スルノミナラズ同市ニハ新町川ト称スル別宮川ノ支派川其ノ中央ヲ貫流シ高水之ヨリ自由ニ浸水スルヲ以テ市ノ低地部ハ周ラスニ小堤ヲ以テシ防御策ヲ講セルモ間堤防ナキ処アリテ浸水ノ害ヲ被リ居レリ市内高地部ト称スル処ト雖モ卅年九月ノ高水位上一二尺ニ及バサル処多シ之ヲ以テ見ルベキハ尚少シク大ナル高水ニ遭遇セル市ノ大部浸水ノ悲境ニ立ツモノト知ルベ

(三) 流量

流量ハ高水防御計画ニ対スル一要件タルヲ以テ数回ノ実測ヲ要スルハ勿論マタ水理学上ヨリノ算出其他雨量ヨリノ推定等ヲ参照シ其ノ真ニ近カラシ事ヲ求メサル可カラズ

本川ニ対スル流量実測ハ卅三年八月ノモノヲ以テ最大トシ本川ノ所謂最大洪水ナルモノニ対シテハ未ダ実測ニ及ブノ機ニ接セス上記ノ実測位置ニ設ケタル覚圓標ノ十八尺八寸七分ニ対スル水位ニシテ一秒ノ流量三十四万二千立方尺トス

茲ニ亦タ同標ノ十九尺六寸ニ対スル水位ニ於テ水面各所ニ於ケル浮流物ヲ見テ流速ヲ定メ算出スル時ハ三十八万三千立方尺ヲ得タリ上記ノ実測並ニ其他少シク低キ水位ニ対シ施行セル数回ノ実測ヨリ推シ卅年九月ノ大高水ニ対スル実測水位並ニ勾配ニヨリ流量ヲ算出スレハ五十四万立方尺ヲ得タリ而シ此ノ場合ニ於ケル水位ハ覚圓標二十四尺三寸二分ニ相当スルモノトス次ニ第十ヨリ西林ニ至ル間七里ノ間二町毎ニ調整セル断面ニ付キ卅年九月ノ高水位並ニ水面勾配ノ実測セルモノニヨリ丁寧ニ算出スルトキハ五十万ノ流量ハ真ニ近キヲ見ル亦タ西林ヨリ上游十三里間ニ於テ卅二年七月高水ニ対シ水位勾配等ノ実測セルモノニヨリ上記ノ方法ニ由リ計算ヲナセルニ畧同様ノ結果ニ帰着セリ

終ニ流域ト雨量ノ関係ニヨリ流量ヲ推定シ参考ニ供セシカ

全流域ノ面積二百四十平方里之ヲ平方尺ニ換算シ億以下ヲ四捨五入スレハ四百億ヲ得卅年九月及卅二年七月ノ両高水ヲ起シタル雨量ハ前者ニアツテハ高知ニ四〇ミリメートル本山ニ八〇ミリメートル之ヲ平均シ尺ニ換算スレハ八六尺ヲ得後者ニアリテハ高知ニ〇四、本山一三六ミリメートル之ヲ総面積ニ乗シ総雨量ヲ出セハ卅年ニハ三二四億立方尺卅二年ニハ二二四億立方尺トナル今比全雨量ハ流域ノ段ニ於テ述ヘタル処ニヨリ少シモ地中ニ浸透スルコトナク河水トナリテ現ハルルコトトナシ且ツ本流ノ最大流量ヲ五十万ト仮定シ其ノ半ヲ平均流量ト見テ之ヲ以テ総雨量ヲ除スレハ全雨量ヲ流出スルニ要スル時間ヲ得可シ乃チ卅年九月廿六時間 卅二年七月廿五時間然ルニ高水ノ通過セシ時間ハ卅年九月西林標四十四時間高畑廿六時間 卅二年七月西林標廿四時間高畑廿四時間乃チ雨量ヨリ算出セル時間ト大差ナシ之レ仮定セル五十万ノ流量力其真ニ近キヲ示スモノタリ

以上列記スル処ニヨリ本川高水最大流量ヲ五十万立方尺ト定メ高水防御計画ノ基トナス別宮川ヲ派シタル後ノ吉野川ハ川幅不定ニテ流量ノ算出ニ苦シムモ其ノ川敷ト認定シ得ルモノヲ採リ断面ヲ調整シ卅年九月ノ水位並ニ勾配ニヨリ第十ヨリ今切分派口迄三里余ノ処ニ町毎ニ前記ノ計算ヲナストキハ十万立方尺ヲ以テ本流ニ通シ得可キ最大流量トシテ可ナルモノノ如シ

参照ノ為茲ニ吉野川ノ低水流量ヲ示サン

卅一年七月十七日ノ実測ニヨレハ左ノ如シ

本流・・・・二四〇〇立方尺

別宮川ヲ派シタル後ノ本流・・・・一一〇〇

別宮川・・・・一三〇〇

此ノ時於ケル高畑標ノ水位四尺ニテ畧其ノ累年平均低水位ニ相当セル水位トス

(四) 計画説明

流域並ニ水害ノ段ニ於テ記述セルトコロニヨリ計画区域ヲ西林以下海ニ至ル迄トシ第十以下海ニ至ル工事及ヒ第十以上西林ニ至ル工事ノ二者ニ分チ説明ニ便セン

(イ) 第十以下海ニ至ル工事

己ニ述ヘタル処ニヨリ本川ノ最大流量ハ五十万トス然ルニ別宮川ヲ派シタル後ノ本流ハ僅々十万ノ流量ヲ通スルノ川巾ヲ保ツニ通ズ尤モ一定ノ堤防ナキ為メ兩岸ヲ浸水セル幾何カノ流量ヲ合セ其ノ余ノ流量ハ第十堰ヲ越テ一射別宮川ニ落ツ而シテ同川ニモ一定ノ堤防ナク亦此流量ニ対スル川巾ナシ之ヲ以テ此ノ流量ハ同川ヲ流心トシ左右沿岸ヲ浸水セシメ海ニ向テ直下スルノ有様タリ今左ニ両川ノ勾配並ニ川巾ヲ示サン

川名	延長	卅年九月 高水面勾配	川 巾 (間)						
			六里	五里	四里	三里	二里	一里	〇
本 流	六里	三千分一	120	100	80	120	80	120	380
今切川	三里					50	100	90	380
別宮川	四里	二千分一			270	200	210	320	320

本流別宮川並ニ今切川トモ川巾一定ヒサルカ故図上川敷トシテ認定セルモノヲ掲ク

本川ハ如斯屈曲、迂回川巾狭ク十分ノ流量ヲ処分セシムルニ苦ム之ヲ以テ同川ニハ其ノ可通最大流量タル十万立方ヲ流スニ止メ別宮川トノ分水ロニハ五十間ノ航路ヲ存シ石堤洗堰ヲ以テ制水エヲ施シ該工以下全流ヲ其儘々据置クモノトス

別宮川ハ本流ノ方向ニ直行海ニ注キ巾広ク事実上本川ノ有様ヲセナリ勾配亦急ニシテ二千分一ヲ以テ海ニ至ル之ヲ改修シテ高水ヲ放流セシムルニハ好個ノ線路タリ由テ此ノ川ヲシテ四十万ノ流量ヲ流サシムルタメ第十分水ロニ於テ巾四百間トシ漸次拡張シテ海口ニ至リ八百間ニ及フ此川巾ニテ規定ノ流量ヲ流スニ不足ノ断面ハ堀上ヲナシ兩岸ニハ洪水面大凡一間半ノ高ニ馬踏四間三割法ニ築堤ヲナスモノトス

別宮川ノ分水ロニ存ル第十堰ハ現形ノ儘之ヲ存置ス柳々本堰ハ數百年来存続スルヲ以テ堰ノ上下流ニ於テ川底ニ著シキ高底ノ差ヲ来セリ今之ヲ除却センカ上流川底落ヲ避クル為メ更ニ堰堤ヲ築設スル外又策ナカルベシ是レ本堰ノ据置ヲ必要トスル処以ナリ

徳島市ハ己ニ述ヘタル如ク高水氾濫区域ニ屬ス之ヲ区外ニ置クハ策ノ尤モ得タル処ナルヲ以テ新町川ノ別宮川ト分岐スル処ニ樋門ヲ設ケ平素ハ流水並ニ舟楫ノ通航ニ差支ナカラシメ高水ノ際ハ一時之ヲ閉鎖スルノ設備ヲナス

吉野川ヨリ徳島ニ入ル舟ハ本流ニ沿ヒ今切川ニ渡リ榎瀬江古川ヲ經テ別宮川ニ出テ之ヨリ新町川ニ沿ヒ同市ニ入ルヲ順トナス而シテ徳島撫養舟楫ノ連絡モ亦タ上記ノ航路ニヨル之ヲ以テ別宮川ト榎瀬江古川ト合スル処ニ新町川ニ設ケタルト同様ノ樋門ヲ設置ス

(ロ)第十以上西林ニ至ル工事

第十ヨリ上流西覚圓ニ至ル一里半余ノ間ハ嘗テ改修ヲ施セル所ニテ巾三百六十間ニ兩岸トモ規則正シキ堤防アリ之ヨリ上流ノ堤防左岸ハ西条ニ至リ止ミ右岸ハ霞堤トナリテ断続西林ニ至ル茲ニハ日開、大久保、伊澤等諸谿流ノ注クアリテ土砂ヲ流入スルノミナラス西林ヨリ上流ニ位セル曾得其他ノ谿流ヨリ流出セル砂礫上流ノ激流ニ押流サレ茲ニ至リテ沈澱ヲ来シ歳々川床ヲ埋メツツアリ故ヲ以テ現今ノ堤防ハ高水面ヲ抜クコト尺余ニ及ハサル処多シ而シテ下游覚圓堤ノ改修セル部ハ漏斗ノロニ位スルノ觀アリテ水位甚タ昇騰スルノ患アリ故ニ是等諸是中本堤ニ屬スル部ハ廿年九月ノ高水面上大凡十尺ヲ標準一斉ニ嵩置ヲ施スコトトセリ而シテ上下堤防ノ接続セサル部ハ之ヲ築補シ得可キ処ナキニアラサルモ之レハ一地方ノ施設ニ委スルコトトセリ

西林以下ハ川巾一定セス亦タ甚ダ広シ此ノ如キコト二里ニ及ヒ之ヨリ本流ニ分シ再ヒ合流スルノ間長一里半巾半里ニ及フ此ノ島ノ頭部ニハ堤防ヲ周シ水ヲ制スルカ為メ水勢兩川ニ躍リ水位高マリ兩岸ヲ荒スコト甚シ其ノ堤防タルヤ単ニ水勢ヲ殺クニ止ムルヲ以テ游水尚全島ヲ葬ルノ有様ナリ今此島ノ堤防其他障害物ヲ取去リ上游ヨリ此ノ島ヲ通シテ游水ノ部タラシメハ急流ノ奔湍ヲ止メ沿岸ノ安全ヲ謀ルト同時ニ川床ノ埋没ヲ輕クシ水位ヲ下シ延テ下游ノ治水ニ資スル少々ナラス今本流ヲ巾三〇〇間、善入寺ヲ二〇〇間トシ規定ノ流量ヲ通ズ迄ニ堀上ヲナス計算ヲナセルニ其ノ費以上ノ計画ヨリ大ナルモ少ナルヲ見ス且ツ此ノ計画ニヨランカ甚タ其ノ堀上土ノ処分ニ苦シム蓋シ築堤ニ使用セル残土ハ沿岸ニ捨土セサルノ止ヲ得サレハナリ加之保存修繕ニ費スル処多カル可ク將又川床ノ埋没ヲ輕減スル能ハサルノ不利アリ

以上陳述セル処ニヨリ善入寺島ヲ川敷ニ入レ游水部トナスノ計画ヲ採レリ

西林ハ己ニ記セル如ク自然的狹隘部ニシテ上游流域ノ開キハ大ニ游水ノ働ヲ助成セリ然レドモ同狹隘部左岸背後ニ凹処アリテ高水之ヨリ侵入シ下游一帶ノ耕地ニ氾濫シ其ノ暴威ヲ極ム蓋此水ハ其量大ナラサルモ浸水後東林ノ高地ニ衝突シ其ノ通路ヲ失スルニ由ルナランカ加之西林ハ本川沿岸中北方ノ咽ロニ位シ商業繁盛ノ駅ナルニ高水ノ際背面ノ低地部全く浸水ノ悲境ヲ見ルニ至ル之ヲ以テ今回締切堤ヲ以テ此ノ浸水ヲ防ク計画ヲ取レリ思フニ上游ニ游水部ノ存スルアルト今回下游ノ排水ヲ快クセルトハ此ノ締切ノ為上流ノ治水上何等ノ變化ヲ来ササルモノト信ス以上ヲ計画ノ概要トス

(五) 施工一般

本工ノ主ナルモノハ土工ニ属シ別宮川筋ニ於テ百七十四万坪上流ニ於テ三十万余坪合計二百万坪ヲ越ユルノ大土工タリ之ヲ以テ偏ニ人力ニ依頼セス進歩セル器械ノ応用ニ待タサル可カラサルヤ勿論ナリ而シテ別宮川筋ノ土工百七十四万坪ハ同川ヲ浚渫スルモノニシテ内堤防ニ使用セル残土百万坪ハ捨土ニ属スルモノトス而シテ此ノ中ニアリテ大部ハ陸上、他ノ少許ハ水中ノ浚渫ニ属ス陸上ノ浚渫ハ掘鑿機ノカニヨリ汽車土運車ヲ以テ運搬ニ供ス水中ノモノハ浚渫船ヲ使用シ土運船ヲ以テ其ノ運搬ニ供ス上流ニ於ケル土工ハ大部旧堤高置工ニ属シ専ラ人力ニヨリトローヒール土運車ヲ使用シ施工スルモノトス

茲ニ別宮川筋土砂ノ処分トシテ上記ノ方ニ出タル所以ヲ一言セント欲ス

掘上土ヲ処理スルニ於テ其ノ最モ簡単ナルモノハ兩岸最短距離ニ於テ捨土スルニアルモ斯ノ如クセスハ少カラサル潰地ヲ生スルノミナラズ本川沿岸ノ如キ土地高価ノ場合所ニ於テ別ニ潰地ノ利用ナキ処ニアリテハ断シテ其ノ不得策タルヲ免カレス去レバ若シ沿岸附近ニ恰好ノ捨土地ナキ以上ハ之ヲ海中ニ運搬スルノ外ナシ本工ニアリテハ運搬距離遠キハ四里而シテ平均ニ里ヲ下ラス今陸路ニ由テ運搬センカ將又水路ニ由ランカハ議論ノ分ル処ニシテ少シク考究ヲ值ス大凡港ノ如ク水深ク航行ニ便ナルノ処ハ水路運搬ハ大ニ其ノ賃金ニ低減ナラシムルモ河川ノ狹隘ナル航路ニシテ而モ水深十分ナラサル場合ニアリテハ舟路運搬ノ比較的廉ナラサルハ己ニ経験セシ処ナリ然ルニ本川ニ就テ考フルニ下流ニアリテハ航路甚シク洪悪ナサルモ上部ニアリテハ予メ浚渫ヲ要セサレバ其ノ目的ヲ達シ難キ処ナキニアラズ又陸上浚渫ニ属スルモノハ水路ニ移ス迄陸運ニ由ラサル可カラズ如斬運搬上数回ノ取扱ヲナスハ其費用ヲ不廉ナラシムル所以タリ若シ夫天候不穩ノ日ハ海上ノ操業往々其ノ進捗ヲ害セラルコトナキヲ保セス此等ハ水運ノ不利トスル処ナリ今陸運ニヨランカ線路架橋ヲ要スル処多ク少ナカラサル線路築造費ヲ要スルアル可シト雖モ若シ新堤線路ニ沿ヒ其ノ盛土ヲ応用スルトキハ大ニ其ノ費ヲ減シ得可シ而シテ陸上浚渫ニ属スルモノハ浚渫地ヨリ直ニ海岸ニ運送スルノ便アリテ水運ニ移スノ勞ヲ省クノ利アリ殊ニ線路ハ固定シ得可ク大ニ運搬費ヲ減シ得ルハ淀川ニ於ケル実験ニ見ル処ナリ如斬彼是比較スルトキハ陸上ノ運搬ハ水運ニ移スノ不利トシテ直ニ陸運ヲ以テ海ロニ運ブノ得策ナルヲ見ル而シテ其ノ水中ノ浚渫モ而タ陸運ニ移サス直ニ水運ニヨリ海ニ運ブハ其ノ隘ヲ得タルモノノ如シ之レ上記ノ施行ヲ採レル大要トス

(六) 工費予算

予算費目中其最モ多額ナルハ地所買上費ニシテ之ニ次クハ備品費・浚渫費及堤防費等トス是等多額ナル費目ニ就テハ其ノ単価ヲ定ムル最モ慎重ヲ要ス

潰地ノ大ナルハ別宮川筋トス此ノ地兩岸一帯ノ藍畑ニシテ土地ノ価格ノ米作地ニ比シ大ニ高価ナリ近年人造藍ノ輸入ト水害ノ頻多ナルトハ藍作ノ盛況ヲ傾ケタルノ觀アルモ未タ土地ノ価格ヲ低減スルニ至ラス今、民間売買ノ価格ト藍作ノ収入等ヲ基トシ調査セシ価格ヲ彼是参照シ此部一反歩ノ価格ヲ貳百円ト定メタリ藍畑地ニアラサル上游ノ畑ニアリテハ一反歩百五拾円トナス浚渫ハ陸運ト水運トモ運搬ヲ込メテ壹坪壹円トセリ築堤ハ運搬距離前者ニ比シ短縮スルヲ以テ壹坪八拾錢ト定メタリ

備品費ヲナス主目ハ掘鑿機汽関車，土運車，レール，枕木，浚渫船，曳船，土運船，トコーヒール並ニ其ノレール，其他雑土工機械及ヒ是等諸機械ノ修繕費及ヒ運搬費等トス

施工中ノ諸費ハ次ノ諸目ヲ含ム

諸傭料，測量費，量水費，試験費，器械工場，倉庫，電話ノ新営費，各所新営費，並其ノ修繕電話保守費，恵与及死傷手当トス

以上予算算出ノ大畧ニシテ其ノ科目金額ハ左表ノ如シ

吉野川改修費総予算表

費 目	金 額
浚 渫 費	1 021 600 000
堤 防 費	1 408 300 000
護 岸 費	228 800 000
地 戸 買 上 費	2 559 400 000
家屋其他買収費	278 500 000
特 種 工 事 費	219 000 000
付 帯 工 補 助 費	100 000 000
備 品 費	1 903 710 000
施 工 中 諸 費	280 690 000
計	8 000 000 000

(七) 施工順序継続年度及工費年度割

河川改修上ノ一難事ハ用地ノ買収ニアリ之ニハ工事ノ進行ニ伴ヒ漸次買収スルト工事着手前一時ニ買収スルトノニアリ後者ハ淀川改修ニ於テ実験セラレシ処ニシテ工事ノ進捗ヲ期シ買収ノ困難ヲ減シ土地ノ騰貴ヲ防キ民間ノ苦情ヲ避クル等前者ニ比シ大ニ勝レルモノアルヲ見ル

本改修ニアリテハ先ツ別宮川筋一帯ノ用地ヲ買収シ上游潰地ハ漸ヲ以テ買収スルノ得策ナルヲ見ル別宮川ノ用地買収ヲ終レバ直ニ土工ニ従事シ其ノ解放ノ期ニ臨ミ本流制水工ニ着手シ其他ノ工事並ニ上游ノ工事ハ其ノ間，適宜施工ノ方ヲ採リ左ノ如キ順ヲ定ム

施工順序並継続年限一覧表

36年度	別宮川筋土地其他買収		別宮川筋土工				
37年度	同上		同上				
38年度	同上		同上				
39年度	同上		同上				
40年度	同上		同上				
41年度	同上終結	上流土地其他買収	同上				
42年度		同上	同上				
43年度		同上	同上		上流嵩置		
44年度		同上	同上		同上		
45年度		同上	同上	榎瀬江古川樋門			
46年度		同上	同上	新町川樋門	同上		
47年度		同上	同上		同上		
48年度		同上	同上落成		同上		
49年度		同上		吉野川本流制水工	同上	西林締切堤	
50年度		同上終結		同上落成	同上落成	同上落成	上流旧堤取除

(八) 国庫費並地方費負担額及年割

年度	国庫費	地方費
36年度	293 660 000	139 800 000
37年度	215 150 000	139 800 000
38年度	344 073 000	139 800 000
39年度	800 000 000	139 800 000
40年度	1 112 100 000	139 800 000
41年度	418 400 000	139 800 000
42年度	338 400 000	139 800 000
43年度	298 000 000	139 800 000
44年度	298 000 000	139 800 000
45年度	298 000 000	139 800 000
46年度	298 000 000	139 800 000
47年度	298 000 000	139 800 000
48年度	298 000 000	139 800 000
49年度	298 000 000	139 800 000
50年度	295 542 018	139 534 982
計	5 903 265 018	2 096 734 982

工費年度割額

年度	工費
36年度	433 400 000
37年度	354 950 000
38年度	483 873 000
39年度	939 800 000
40年度	1 251 900 000
41年度	558 200 000
42年度	478 200 000
43年度	437 800 000
44年度	437 800 000
45年度	437 800 000
46年度	437 800 000
47年度	437 800 000
48年度	437 800 000
49年度	437 800 000
50年度	435 077 000
計	8 000 000 000

(注) 単位は厘である。